

0022-02

会場:303

時間:5月23日 08:45-09:00

## 糸魚川ジオパークにおけるガイド養成 Training of guide in Itoigawa geopark

宮島 宏<sup>1\*</sup>, 岩崎良之<sup>2</sup>, 斉藤清一<sup>2</sup>, 大嶋利幸<sup>2</sup>, 渡辺直志<sup>2</sup>, 関澤 仁<sup>2</sup>, 鳥越寛子<sup>2</sup>, 竹之内耕<sup>1</sup>, 茨木洋介<sup>1</sup>  
Hiroshi Miyajima<sup>1\*</sup>, Yoshiyuki Iwasaki<sup>2</sup>, Seiichi Saito<sup>2</sup>, Toshiyuki Oshima<sup>2</sup>, Naoshi Watanabe<sup>2</sup>, Hitoshi Sekizawa<sup>2</sup>, Hiroko Torigoe<sup>2</sup>, Ko Takenouchi<sup>1</sup>, Yousuke Ibaraki<sup>1</sup>

<sup>1</sup> フォッサマグナミュージアム, <sup>2</sup> 糸魚川市ジオパーク推進室

<sup>1</sup>Fossa Magna Museum, <sup>2</sup>Itoigawa geopark promotion office

### はじめに

ジオパークにおけるガイドの果たす役割はきわめて大きい。優れたガイドは、お客様（ジオツーリスト）の知的好奇心を満たし、『ジオ』の世界へ誘う良き教育者であり、再びジオパークを訪問する動機づけができる。さらにジオパーク内にある貴重な資源の保全に対する意識も高揚させるであろう。つまり、ガイドはジオパークの3要素である『保全』、『教育研究』、『旅行』のいずれにも重要な存在であり、ガイドがジオパークの成功の鍵の一つを握っているのである。今回は、糸魚川ジオパーク（以下ではIGP）でこれまで取り組んできた認定ガイドの養成について報告する。

### 先ジオパーク紀のガイド

IGPが世界ジオパークを目指す以前から、糸魚川ガイド協会があり、その協会に属するガイドが旅行者に案内をしていた。その内容は、ヒスイ文化、長者ヶ原遺跡、奴奈川姫神話、塩の道、神社仏閣、祭礼、文人・相馬御風など人文科学的な分野の解説で、自然科学的な内容はほとんど含まれていなかった。

1994年のフォッサマグナミュージアムの開館後は、ミュージアム館内での学芸員による地質学的内容の解説がされるようになったが、館外での解説は学校の修学旅行や学会の見学旅行などに限られ、一般の旅行者への案内はほとんどなかった。

### ジオパーク紀のガイド

2006年以降、前述のようなガイドの重要性を踏まえ、IGPではガイドを養成するために次の事業をおこなってきた。

#### 1. ガイド養成講座（野外）

世界ジオパークに認定された2008年度から始められ、実施回数は2008年度（4回）、2009年度（4回）、2010年度（6回）である。IGPの24のジオサイトの中から、糸静線・塩の道、小滝川ヒスイ峡、弁天岩、親不知、蓮華、海谷、月不見の池、神道山などの代表的なエリアを選んで行われた。これまでの3年間で同じジオサイトで複数回、ガイド養成講座が行われたことがあるが、これは季節によるジオサイトの変化、特に植物を意識して時期をなるべく変えておこなうように配慮した。現地では学芸員の地質学解説だけでなく、参加者で専門的な知識を持つ人にも解説してもらい、さまざまな分野にわたる情報を学習できるようにした。また、参加人数が多すぎると学習効果も低下することから、人数を制限しておこなった。人数の制限と事前の下見は、ガイド養成講座における参加者の事故防止にもつながった。

#### 2. IGP 検定

IGPの特徴や世界ジオパークのことを、多くの人に知ってもらうために2009年度から始められた。初回の2009年度は初級試験が行われ、464人が受験し、433人が合格した。小学生から80代まで幅広い年齢の受験者があった。この検定の受験ためのテキストとして『糸魚川ジオパークのことがわかる本』を作成した。一般向けに配布したほか、市内の小中学生にも副読本として3000部を配布した。検定試験の前には『ジオパーク検定直前講座』を開催し、ジオパークにおいて重要な点の復習と学習した知識の再確認をおこなった。2010年度には初級試験に加え、前年度の初級試験合格者のみが受験できる上級試験がおこなわれ、初級121人、上級136人が検定に臨み、それぞれ114人、70人が合格した。

#### 3. ジオパーク認定ガイド（第1期）

2009年のジオパーク検定上級に合格していて、ジオパークになる以前からのガイドの実績が十分にある人と、あるいはジオパーク検定を受験していないものの、これまでのガイドとしての実績が申し分のない19人を『ジオパーク認定ガイド』とした。

#### 4. ガイド認定実技試験

2010年度おこなわれた8回のガイド養成講座(野外6、室内2)に4回以上出席していて、ジオパーク検定上級試験に合格していることを条件に、認定ガイドになりたい人を対象に『ガイド認定実技試験』が親不知ジオサイトでおこなわれた。審査は認定ガイド、観光協会職員、交流観光課長、学芸員らが担当し、観光客に扮したジオパーク推進室の職員2名に対し、決められた時間内でどのようなガイドをするかを審査した。審査項目は、服装、態度、話し方、歩く速度、気配り、楽しさ、正確さなど多岐にわたり、16人が合格し第2期の認定ガイドとなった。

#### 5. IGP 認定ガイドの会の発足

2009年度から始まったIGPの認定ガイドが35人になり、IGP認定ガイドの会が発足した。ガイド技術の向上のために、他地域のガイドの実地研修やガイド相互の実地研修会などの実施が検討されている。

#### 6. 認定ガイドの課題

IGP認定ガイドは有償のガイドであり、2010年度は196回の利用があった。現段階での料金が7時間まで一律1,000円となっており、石見銀山ガイドのガイド料金(平地3時間5,000円)などと比べきわめて安い。料金設定は認定ガイドの『やる気』にもつながるので、より多角的視点からの設定が大事である。

キーワード: 糸魚川ジオパーク, ガイド, 養成, 検定試験, ジオツーリズム, ガイド料金

Keywords: Itoigawa geopark, guide, training, certification, geotourism, guide fee